

「」 からの学力、

必要なトレーニングとは？

【2020年入試改革】

「大学入学共通テスト」の動向

2020年度からセンター試験に代わり実施される「大学入学共通テスト」の試行調査(プレテスト)が昨年度に重ねて今年11月10日、11日に行われました。「思考力・判断力・表現力」を問うというところで、これまでのマークシート式だけではなく各教科記述問題が出るのか、知識問題ではなく思考型の問題が出る、「正答をすべて選ぶ」といった過去にない形式などが話題ですが、とにかく二度の試行を経て最終的な形が見えてきました。

国語は、変更点が多くあります。形式的な変更点としては、記述問題が3題(30字、40字、80〜120字)出ることです。記述問題の難点は、解答の振れ幅があることなのですが、前回の試行テストに比べて採点基準が限定的となり、また、採点基準も評価方法も明示されました。テストとしてより実用的なものになっています。字数の少ない記述問題は、前試行テストのものより難易度が下がったように思えます。一方、どの記述題も、いくつかの問題点を自分で見つけてからまとめなおすという形式ですので、資料や文章を関連付けて読んだ上で、ポイント

げる手法を身に付けておくべきですから、よい変更だと言えるでしょう。

表現力については、長い時間と訓練が必要なものです。テストのような短時間で指示に従って書かねばならないようなときには、付け刃の短期間の「対策」ではうまくいきません。普段から、きちんと主語と述語を正しく使い、いたいことには理由や根拠を添えること、学習に際して要約し書き出すことをいとわないようにしておきたいものです。

また、このテストは共通テスト、つまり大学受験用の個別のテストとは異なる一般的な素養をみるテストにすぎないという点も忘れてはなりません。このテストを受けた後、志望する大学別の個別のテストを受けることになりませんが、その国語のテストはこれまでのレベルを落とさず、それぞれ大学の要求する教養と思考力が試される高度な内容で問う傾向が続くと思われまます。そうになると、これまで通りの勉強も必須です。子供たちには、ある種学習の負荷がかかる状態になるのは間違いないでしょう。

とはいえ、当塾の実績が示すように、要約・記述をメインにする学習は、国立大学に見られる個別の記述中心のテストでも、マーク式の記号中心のテストでも、高い効果を上げます。



や情報を的確につかみ、組み合わせる文章を作成するので、難易度を下げられてもかなりの時間と事前の訓練が必要になります。記号の問題でも、複数の文章・資料を関連づけて解答する傾向が際立ちました。

【学校や塾で習った？ 習ってない？】



出題されている文章自体は、総じて、現代文B・古典Bの教科書のレベルより簡単なもの感じます。しかし、評論・文学・古典、すべての出題で、複数の形式の違うテキスト・資料を読み合わせ、複合的に考えるような出題形式になっています。また、短い記述問題でも、難易度は高いもの、本文設問部分の前後を読んで適当に解を作る、というわけにはいきませんでした。中学受験や高校受験、およびそのための問題集や模試ではほとんど取り扱わないような出題です。また、複数の文章や資料からそれぞれの問題点や矛盾する点などを見つけ出すということも、100字程度のまとまった文章に書きまとめるというのも、高校・塾・予備校がほとんど取り扱ってこなかった、取り組んでも年に1〜2度だけ、という学習ではないでしょうか。実際、文の構成や難易度は高いとは思えないのに、参加者の高校生がインタビューで「文章を書くのが難しかった」というのも納

なんらかのテクニックを磨くとか、学力とテストの点数は別ものだ、という考え方をやめて、文章の内容を理解し、その内容を自分の中に落としこみ、さまざまな別の事象もあてはめて理解しようとする論述学習の姿勢が、これまで通り効果を発揮させると思われます。そして、作文・小論文やレポートの作成もよい練習になるので、積極的に取り組み、自ら修正を繰り返していくとよいでしょう。やっつけ仕事のように提出したり、入賞を意識し過ぎるあまり大人の思考を借りたりしすぎると、せっかくの学習機会を失い、受験用に新たに勉強し直さなくてはならなくなります。長期の反復学習のみが成果を出します。急がば回れ、

ゆっっくりしっかり学習しましょう。

(松末)



得です。こんな解答の仕方は誰も教えてくれなかった、という受験生の愚痴が聞こえそうです。教養や知識ならば詰め込み式の学習でもなんとかなるのですが、このような長い期間の練習が必要なものが出ると、付け刃の学力(能力)では厳しくなるでしょう。

【キーワードは「表現力」】

考える力自体は少しずつ伸びていくもので、視野を広げ複合的に考える方法も中学・高校で取り組みだしてもできるような課題です。ただ、正しい文章を書く、内容をまとめていく、ということの基礎は、小学生で身に付けておかなければならないスキルです。実は、現行の指導要領にも、小学生で「思考力・判断力・表現力」を身に付けることが明記されており、新指導要領は中学・高校の段階でも追記したにすぎません。表現の訓練は初歩の学習段階から始まっているのは明らかです。

加えて、これは共通テストですから、理系・文系関係なく、このテストに向き合わねばなりません。これまでであれば、記述表現力は文系の国立大学、一部の私立大学にのみ課された課題でした。しかし、社会に出た時にない困る能力です。どの人も正しい文章表現・まとめあ

ピックアップ授業

松桜塾の授業には予め誰かが作りだしたものを自分の言葉で表現するだけではなく、自分で新しいものを創りだしていくカリキュラムもあります。

低学年では、季節を表すものが描かれたカード一枚選び、それに関連した言葉を挙げていってもらいます。それにまつわる自分の体験を思いだしたり、特徴が類似しているものを連想したり、何と結びつけるかは人それぞれ。こういった連想作業は始めからすぐに言葉が出てくるわけではありません。しかし、繰り返すうちに、頭の使い方がわかってくるのか、こちらが思いもよらない発想をしてくる子もいます。また、文章にしていく際には、比喩や擬態語なども用いるため、最終的にはその子にしか書けない作文になっていきます。

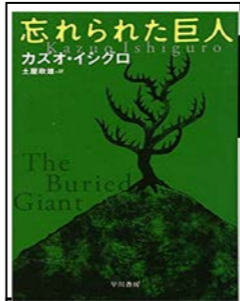
ありきたりのものではなく、その子自身を表すような作文。そういったものは読み手の心を強く惹きつけます。これからの時代、自分の中に蓄えられた知識や経験をどのように活かせるかが問われます。松桜塾での授業は、このようなトレーニングにも最適です。(中野)



『忘れられた巨人』 対象学年／中学生以上

六世紀のイングランドを舞台とした長編ファンタジー。といっても煌びやかな魔法も、冒険も、そこにはない。あるのはただ、鬼や竜が跋扈する荒れた大地と人々の暮らし。主人公は遠い地で暮らす息子に会うため旅にでた老夫婦である。しかも、「大切な何か」を忘れてしまっているのだ。思いだせないもどかしさ。そんな正体不明の喪失感と焦りをかえながらも、夫婦はお互いを思いやる愛情を確かめあいながら旅をつづける。

物語の序盤は読んでいるこちらも主人公と同様に霧の中を手探りでいくようなもどかしさをおぼえる。しかし、そこに散りばめられた伏線と暗喩を拾い集めながら読み進めて行くのもこの本の醍醐味である。そして、徐々に欠けた記憶が埋まっていき真実が明かされていくとページをめくる手が止まらなくなり、更にどっぴりとこの世界に引き込まれていく。さて、どんな真実が隠されているのか。「忘れられた巨人」とは何なのか。その目で確かめていただきたい。読後、この物語について語り合いたくならないこと必至。お声掛けお待ちしております。



カズオ・イシグロ著
早川書房
1,058円(税込)

(高須賀)

コクゴのチカラ vol.29

松桜塾 662-0036 西宮市大井手町 3-11 夙川ビル 2F TEL 0798-74-2801 FAX 0798-74-8686
info@glt-shouou.com http://www.glt-shouou.com/ 2018年11月20日発行(第29号)

公開講座のご案内

◆親だって松桜塾!

大人向け 授業体験

保護者様対象の松桜塾の授業体験ができるワークショップです。ご好評にお応えして12月も開催いたします。

普段、子どもたちは松桜塾でどのようなことを学んでいるのか、確かな理解力や思考力、豊かな表現力を身に付けるためには、どういった練習が必要なのか等、普段の疑問を実践を通して解決しませんか。

今回は思考の基礎となるマンガ作文を題材に、論理力の磨き方を学びます。自分が見たものを誰にも分かるように順序立て、言語化していく作業は大人にとっても新鮮なものではないでしょうか。お誘いあわせの上、ぜひご参加下さい。

日時…12月16日(日) 10時30分～12時30分
場所…松桜塾 二階
対象…保護者
定員…12名
費用…1,080円(税込)



冬期講習のご案内

松桜塾では左記の日程で冬期講習を実施いたします。ご参加お待ちしております。

12月20日(木)～1月5日(土)

(日祝および12月29日～1月4日をのぞく)

※詳細は別紙をご確認ください。

レギュラー生への案内

月謝引き落とし

12月度 11月27日(火)
1月度 12月27日(木)
2月度 1月28日(月)

*振替日までに口座へご入金ください。

*口座振替でない方は、指定口座へのお振込み、または現金でのお支払いをお願いいたします。

祝日による休塾日

12月24日(月) 振替休日
1月14日(月) 成人の日
2月11日(月) 建国記念の日

*月曜の通塾生は、右記の授業を振り替えてください。

冬期休塾日

12月29日(土)～1月4日(金)

冬期講習期間

12月20日(木)～1月5日(土)

*冬期講習中も通常授業は行います。ご注意ください。
欠席等のご連絡はお早めをお願いします。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。ご意見・ご感想などございましたら、ご遠慮なくメール・FAX・連絡帳にてお聞かせください。今後の教室の運営、ニュースレターの作成に反映させ、ますますの充実を図って参ります。

また、本紙の配信がご不要の場合、その旨を一報くださいますようお願いいたします。

目標を越えていく

給料のための仕事であっても、達成・解決できてうれしくなったり、試験のために始めた勉強であっても、新しい知識に感激したり、やっていること自体に面白さや喜びを見つけていることがありますね。むしろ、そう感じられないと、むなしさを感じます。松桜塾の中・高生の教材「こどものための哲学対話」(永井均 著)の最初に、「目的と手段は分けられない」というテーマがあります。目的のために行う「手段」としての行為であっても、それを行っているうちに、することそのものが目的となってしまう。生の充実は、結果ではなく、その過程にあるものだから、何事においてもそのようになるのは自然なことです。

これ自体はとても素晴らしいことなのですが、反面、目的を見失う原因ともなります。特に、目標が近づくと、目標と自分自身が一体化して、訳が分からなくなりがちです。ゴールを見失ったり、方向性を間違えたりもします。登山でも、少し離れたところからは目指す頂上がかかるのですが、頂上に近づくと、逆にあとどれくらいか見えなくなることはよくありますね。目標を見失うと、どうなるでしょうか。水は高

きより低きに流れます。下ることは、自然に任せればできますが、上を目指す場合、意識的に努力しなければなりません。行き先が見えない場合、もがいたり苦しんだり、なんのためにしているのか見失ったりしかねません。

こういう時、どうすればよいのか。同じく哲学にヒントがあります。近すぎる目標は入り込むと見えないのですから、目標をその目標の次の段階に据えるといいのです。中学受験なら、どのような中学生になることを目指しているのか、どのような大学を目指しているのか、もう少し先のより大きな目標に変えてみます。

すべての小さなことにも使えます。読書をしないうちにも読書させるには、読書の次の段階を少し見せます。この時、「大人になったとき困らない」のようなあいまいで遠い目標は、実感が持てないで、動きの取り方が分かりません。だからといって、この本を読みなさいと言われても、なかなか手をつけられない。これを読んだ後にはどうなってしまうのか、イメージしてから読み始めるといいのです。知識が増えるのか、読書スピードが上がるのか、読んだ後には



確実に自分は何か変化があるわけですから、それを楽しみにまず一歩踏み出します。実際に、没頭できれば、予想していた以上の何かを得られるのですが、それはしてからの、そして、した人だけのお楽しみです。「なんのために」を越え、「いかに」生きるか。難しい哲学的な命題です。子供たちとそんなテーマの文章を読み考えている私も、もちろん満足はいく生き方ができているわけではありませぬ。いつも失敗し、後悔し、これではいけないと思うことの連続です。それでも、子供たちと共に、成長しているのを感じられるというのは、ありがたい職業的役得だと思っています。(松末)

目次

- 一面 『目標を越えていく』
- 二面 『これからの学力』
- 必要なおトレーニングとは?』
- 三面 『ピックアップ授業』
- 四面 『ライブラリ29』
- 『レギュラー生への案内』